

重 要 記 録

1 新型コロナウイルス感染症等 生活支援・経済対策などの推進（通年）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や、原油価格・物価高騰等の影響を大きく受けた市民や事業者を支援しつつ、地域経済の活性化を図るため、市内事業者の事業継続を目的とした「オミクロン株影響対策特別支援金」の支給のほか、生活支援策として全市民を対象とした、一人あたり2,200円分の「全国共通おこめ券」を配付するなど、状況に応じた施策を実施した。

2 米子市出身スポーツ選手が全国・世界を舞台に大活躍（通年）

前年の東京オリンピック女子ボクシングで金メダルを獲得した入江聖奈選手をはじめ、ボクシングの木下鈴花選手、競泳の武良竜也選手、飛び込みの三上紗也可選手・佐々木音華選手、ローイングの富田千愛選手、陸上の安野祐平選手など、米子市出身のスポーツ選手が国内外の大会で大活躍された。

3 「淀江どんぐりこども園」開園（4月）

園児一人一人に健やかな育ちのための質の高い教育と保育を提供することをめざし、淀江保育園と宇田川保育園を統合し、米子市初の公立の認定こども園として「淀江どんぐりこども園」を開園した。また、同園内に、淀江地区における子育て支援の拠点となる「よどえ子育て支援センター」も新たに開設した。

4 ふれあいの里総合相談支援センター「えしこに」開設（4月）

複雑・複合的になっている生活福祉課題を抱えた方々の相談を受け止め、地域の住民や関係機関等の支援者との協働による支援の拠点となることを目的として、4月に総合相談支援センター「えしこに」を開設した。

5 「脱炭素先行地域」に選定（4月）

環境省が募集する「脱炭素先行地域」に、米子市、境港市、ローカルエナジー株式会社、株式会社山陰合同銀行の4者による共同提案が選定された。温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「脱炭素社会」の早期実現に向け、取組を進める。

6 米子市議会議員一般選挙（6月）

6月5日に、「米子市議会議員一般選挙」が行われた。このたびの選挙は、30人が立候補の届出を行い、選挙の結果、新人議員8人を含む26人の新議員が誕生した。

7 米子市教育支援センター～ぷらっとホーム～開所（8月）

学校や家庭以外の居場所・学びの場として、米子市教育支援センター～ぷらっとホーム～を8月に開所した。児童生徒の状況に応じた学習支援のほか、創作活動、コミュニケーション活動、地域に出かけての活動、外部人材を招聘した体験活動等を行っている。社会的自立や学校復帰のきっかけづくりとなるよう、利用する児童生徒や保護者を支援している。

8 啓成小学校新校舎完成（幼保小連携型学校整備）（9月）

老朽化により建て替えが進められていた啓成小学校の新校舎が完成し、令和4年9月26日から使用を開始した。今後、同一敷地内に認定こども園を整備し、小学校とこども園の一体的な取組を、本市として初めて行うこととしている。

9 米子駅南北自由通路の通称「がいなロード」と命名（10月）

自分たちが暮らしている街に愛着を持つとともに、わかりやすいまちづくりを推進していくことを目的とし、令和4年5月13日に実施した米子市長定例記者会見において、米子駅南北自由通路の通称名を公募することを発表した。公募結果については、令和4年10月7日の米子市長定例記者会見において発表し、「がいなロード」と命名した。

10 おくやみコーナー設置とスマート窓口手続き拡大（10月）

死亡に関するさまざまな手続きを1か所で受け付ける「おくやみコーナー」を10月に設置。加えて、ライブイベントに伴う手続きを一括して受け付ける「スマート窓口」では、利用できる手続きを拡大した。

11 フレイル対策 三拠点体制で本格展開/1億円の寄付金を受贈（10月）

令和4年6月に市内3ヶ所目となるフレイル対策拠点を設置し、各拠点を中心に、フレイル度チェックの実施、予防実践教室の開催及びフレイル予防に関する情報発信等に取り組んだ。

また、一般社団法人G・Bからいただいた1億円の寄付金をもとにフレイル対策推進基金を設置し、民間企業との協働によるフレイル対策事業のさらなる推進を図ることとした。

12 皆生処理場をカーボンニュートラル地域モデル処理場として登録（12月）

老朽化した下水処理場の再構築の検討において、下水道の脱炭素に向けた効率性の高い設備の導入による省エネルギー化、創エネルギーの推進及び再生可能エネルギーの利用促進を踏まえた運転維持管理に係るコストの低減を図る施設整備計画が国に認められ、全国初の「カーボンニュートラル地域モデル処理場計画（皆生処理場）」として登録された。

13 米子インター西産業用地の整備事業開始（3月）

地域経済の活性化・雇用機会の拡大を通じた、少子高齢化や若年層の人口流出といった諸問題の解決を目的とし、市内に不足している産業用地を、米子インター周辺工業用の南側に拡大するかたちで整備することとした。本市として初めて農村産業法を活用した産業用地の整備であり、開発面積は約5.4ヘクタールとしている。令和5年度中の完成を目指し、工事に着手した。

14 立地適正化計画策定（3月）

人口減少の中にあっても一定エリアにおいて人口密度を維持し、都市的な生活サービスの持続的な確保を図り、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進するため、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画を策定した。

1.5 米子市地域公共交通計画を策定（3月）

令和元年に策定した「米子市公共交通ビジョン」をベースに、公共交通政策を推進するマスタープランとして「米子市地域公共交通計画」を策定した。本計画では基本方針として「まちづくりを支える公共交通」、「使いやすく分かりやすい公共交通」、「くらしを支える公共交通」を掲げている。